

【創域理工学部社会基盤工学科】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

実力主義の伝統を堅持しつつ、高い専門性と倫理観、国際的な視野を持った人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、社会基盤工学科で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 数学、物理、情報技術、土木工学の主要専門分野の基礎知識・基礎学力を備えるとともに、その基礎知識を適切に応用したり、新しい専門知識を身に付け応用できる能力。
2. 技術者倫理（倫理観）や、自然・社会環境と土木技術との相互作用についての適切な見方・考え方（環境観）の基礎となる国際性や横断的にものごとを俯瞰できる能力（教養教育／横断教育で養う資質・能力）を備え、その考え方にに基づき、正しい判断ができる能力。
3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら解決すべき問題を定義してそれに対する解決案を計画・実行する能力（課題発見力・解決力）。
4. 修得した専門知識や教養をもとに、倫理的・批判的に思考し、積極的に取り組むことのできる判断力・行動力。
5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、チームの一員としてやるべきことを判断して行動する能力。
6. 修得した専門知識や教養をもとに、社会基盤工学に関するキャリアを形成し、自己を管理する能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

社会基盤工学科の教育理念に基づき定められた学習・教育到達目標を達成させるために、学士の教育課程を以下の通り編成する。

1. 土木技術に必要な数学、物理、情報技術などの基礎知識を習得するとともに、応用できる能力を育むため、微分積分学などを基礎科目「基幹基礎（必修）」として配置し、応用数学を「専門科目（選択）」として配置する。
2. 土木工学のすべての主要専門分野の基礎知識を習得するとともに、応用できる能力を育むために、各専門分野の入門的科目を「専門科目（必修）」とし、より実践的な実験・実習科目を基礎科目「専門基礎（必修）」として配置し、さらなる知識の修得のため、「専門科目（選択）」を配置する。
3. 土木工学の実務的な課題を理解し、それを解決するのに必要な知識を獲得できる力を育むとともに、土木工学の実務的な課題を解決へといざなう幅広く横断的に扱う応用科目を「専門科目（選択）」として配置する。
4. 土木技術が自然・社会に及ぼす影響・効果を理解し、その社会的役割と責任を認識し、技術者倫理に基づいて判断できるようになるために、倫理観を養う内容を含む「専門科目（必修）」および基礎科目「専門基礎（必修）」を配置し、技術者倫理教育を実施する。
5. 自然・社会と調和する形で土木技術を適用できるように、自然を学ぶこと、人間と社会を学ぶこと、キャリア形成を学ぶこと、外国語を学ぶことおよび領域を超えて学ぶことを通じて多面的な素養を身に付けるために、「一般教養科目」を配置する。英語教育においては、少人数クラスや習熟度別クラスを取り入れ、学修効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
6. 自分自身で、またはチームで協力しながら、土木工学に関する課題を見出し、与条件の下でそれを解決するための計画を立て、試行・検討・実行できる力を育むために、実験・実習科目を基礎科目「専門基礎（必修）」として配置し、さらに卒業研究を実施する。
7. 分かりやすく論理的に記述する力、プレゼンテーション力、建設的な議論ができる力を育むために、実験・実習科目を基礎科目「専門基礎（必修）」として配置し、さらに卒業研究を実施する。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、社会基盤工学科の基本理念のもと、

1. 高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を備え、専門分野の学習に必要な学力を持つ人、
 2. 将来広く国内外で国際的な視野を持って活躍するための基礎的な素養を身に付けている人、
 3. 自らの考えを表現する力を備え、主体的に多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人、
- を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

(A 方式入学試験)

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

(B 方式入学試験)

学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、物理又は化学）の得点を用いて選抜する。

(C 方式入学試験)

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

(グローバル方式入学試験)

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、物理又は化学）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

(学校推薦型選抜(指定校制))

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜(英語資格検定+特定教科評価))

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と国際的な視野を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(総合型選抜(女子))

学科の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と卒業後を見据えた明確な目標を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

(帰国生入学選抜、外国人留学生入学試験)

海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、資格・検定試験の成績、小論文、面接等により選抜する。